

|         |                   |
|---------|-------------------|
| 漢法苞徳塾資料 | No. 240           |
| 区分      | 治療論・配穴            |
| タイトル    | 配穴の補瀉について         |
| 著者      | 八木素萌              |
| 作成日     | 1990.05.17 8期入門講座 |

◇補瀉には「配穴の補瀉」と「手技の補瀉」とがあり、『難経』の記述ではこれは厳格に結びつけられている。

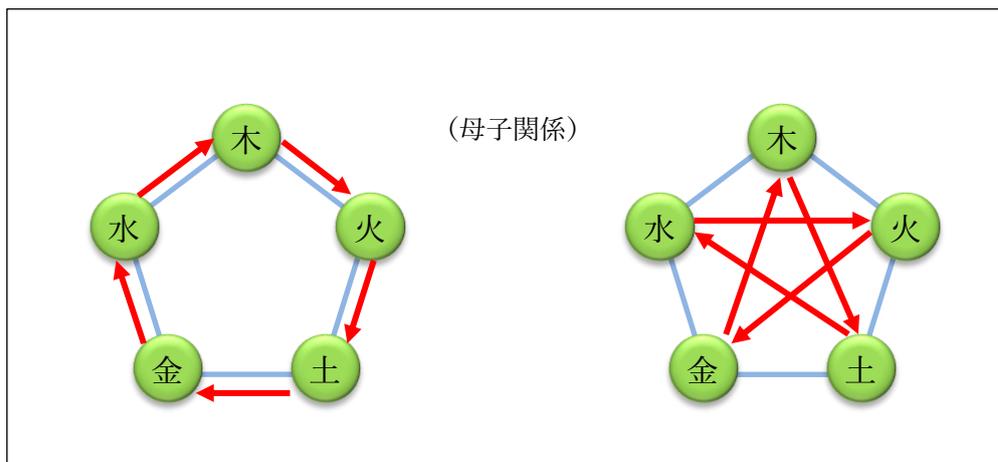
◇鍼灸治療は経絡と穴の性質を運用する事によって疾病を治療しようとする医学医術であるが、この「経絡と穴の性質の運用」は刺鍼に際して、そこに「補」や「瀉」を施術する事によっている。「配穴の補瀉」とは、「穴」の性質が「補」となるものを用いれば「補」穴による「補」と言い、「瀉」となる性質の「穴」を用いれば「瀉」穴による「瀉」と言う、この事である。

◇配穴の補瀉の原理は主として五腧穴の五行性と経脈の五行性の運用にある。

- a) 経脈の五腧穴の五行性の母子関係を用いるのであるが、母穴に施術すれば「補」となり、子穴に施術すれば「瀉」となる。
- b) 自分の経脈の剋穴を瀉せば「補」となり、補せば「瀉」となる。(手技の補瀉を併用している)
- c) 母経の母穴(木性経脈なら水性穴)・自穴(木性の経脈であれば木性穴)・原穴(手技の補瀉を併用している)・子穴(木の経脈なら火穴・補法手技を併用する)などから撰穴すると「補」となり、子経の子穴(木経なら火穴)・原穴(瀉法手技を併用する)・自穴(木経なら木穴・瀉法手技の併用)などを用いると「瀉」となる。これは、要するに経脈の母子関係の利用である。
- d) 剋経の運用による「補瀉」がある。剋経を瀉せば「補」となり、補せば「瀉」となる。
- e) 以上の他に病邪の親和性がある穴(風邪は木性の邪で木性の臓腑に親和性があると共に木性の穴や木性の部位のも親和性がある、従って風(木)邪は井(木)穴・熱(火)邪は榮(火)穴・飲食労倦(土)の邪は兪(土)穴・傷寒(主に燥と共に体上部より侵襲する寒冷)の邪(金)は経(金)穴・冷涼(湿とともに下部から侵襲する)の邪(水)は合(水)穴~のようになる)を瀉せば、生体にとっては「補」となり、病邪にとっては「瀉」となる。また病邪の在る五臓を代表する穴(肺は金性の臓であるから金性の穴)を補して病邪を追い出させるように期待する事がある。七十四難の指摘している方法である。

## ◎ 五行の相生関係

## 五行の相剋関係



## ◇穴の五行性

- a) 五行穴は、井・榮・兪・経・合の五穴である。陰の経脈では、井穴は木性穴・榮穴は火性穴・兪穴は土性穴・経穴は金性穴・合穴は水性穴であり、陽の経脈では、井一金・榮一水・兪一木・経一火・合一土となる。
- b) 主治証として『難経』の記述が非常に良く知られているが、留意しなければならない事がある。

☆井穴は「木性穴」で「心下満を主る」と言うのは、心下部の痞満を主治すると理解されているが、むしろ『傷寒論』に言う「胸脇苦満」である。木性の病は「風証」と言うが、これは厥陰肝経・少陽胆経の流注部位を主として種々の病症反応を見せるものであり、「主心下満」と言う表現は「風証」「木性証」の多様な症候を代表的な症候で約言して記憶に便利なように記述したものと解釈すべきである。

☆榮穴は「火性穴」で「身熱を主る」と言うのは、「火性の証」「火性の臓腑の病症」「熱症候」を主治するものとの記述である。

☆兪穴は「土性穴」で「体重節痛を主る」と言うのは、「土性の証」「土性の臓腑の病症」「労倦と飲食に由来する病症」、つまり、飲食が不適切であるとか過労状態であるとかの時に生じる種々の病症候を主治することを記述しているのである。腫脹を治療する時にも用いるが、「土性」病症のみに適応するものである。

☆経穴は「金性穴」で「喘咳寒熱を主る」のであるが、これは「金性の証」「金性の臓腑の病症」を主治するとの記述である。「金性の邪」を『難経』は「傷寒」と記述しているが、これは体上部から侵襲する寒冷を主とする病の事である。

☆合穴は「水性穴」で「逆気して泄つするを主る」のであるが、これは「水性の証」「水性の臓腑の病症」「水性の病邪の現わす症候」を主治するとの記述である。『難経』は「中湿」（湿にあたる）と記述しているが、これは冬の邪気としての「体下部より侵襲する病邪」としての「冷涼・寒冷の邪」の意味である事は記述全体の構成から解釈して間違いでは無いものである。

- c) 陽経の五行穴に示されているものは「剛柔夫妻の性質」を表現しているもので、主治証は、穴に配当されている五行性よりも、兪穴としての「井・榮・兪・経・合」の性質に従っている。

◇要穴論を研究して置く必要がある。

五行穴・原穴・絡穴・郄穴・募穴・背腧穴・八会穴・八宗穴・四海穴・標本根結穴・四街穴・交会穴・四宗穴・等は治療上特に重要性の高い穴であるから、十分に研究すべきものである。

◇歴代の代表的な鍼灸家の集約穴は大切である。例えば、上海中医学院が編纂した『針灸穴学』は、一穴のみの穴は54穴、二穴の穴は312穴、全身の総穴数は678穴、穴名は366穴を記述している。また、最近の新穴・奇穴のみを集めた書では、本によっては1000穴～2000穴が記載する、しかしこの多くは『阿是穴』と見なせるものである。これらの全てを知って自由自在に運用できるに越した事はないが、そうまでしなくても、十分に治療は可能である。効果の高い穴・効果的な穴セットを先ず重点的に学習するのが捷徑である。歴代の著名鍼灸家が150～200穴に集約しているが学習し利用すると良い。